

【解 答】

3) IgM-HA 抗体陽性 (重症 A 型肝炎)

解説：

発熱、食思不振を主訴とする急性 A 型肝炎の症例である。A 型肝炎ウイルス (HAV) は、糞便中に排泄され、糞口感染によって伝播するため、衛生環境の不良な発展途上国で蔓延し、上下水道の整備された先進国ではまれであった。近年、男性と性交渉をする男性 (MSM) の間で A 型肝炎が急増しており、2017 年 6 月 7 日に WHO が注意喚起を行っている。わが国でも 2018 年 7 月 18 日に厚生労働省健康局結核感染症課より地方自治体、医師会、感染症関連の学会などへ「A 型肝炎報告数増加に伴う注意喚起について (協力依頼)」が発出されている¹⁾。

初期症状として 38℃ 以上の発熱、全身倦怠感、食思不振、嘔気、腹痛、下痢などをともなうことが多いが、急性胃腸炎の症状と類似しているために診断が遅れるケースもある。ほとんどの症例で自然軽快し、慢性化もおこらない。小児期の感染は不顕性感染が多いが、成人例、特に中高年になると重症例が増加する。重症例では、急性腎不全の合併が見られることがあり、本症例も入院時既に血清クレアチニン値が上昇しており、後に重症化し、血液濾過透析を必要とした。B 型急性肝炎と比較し、劇症化はまれとされているが、AST/ALT 高値例、プロトロンビン時間の延長が見られる例などでは注意が必要である。A 型肝炎の肝障害は、ウイルスの直接作用ではなく宿主の免疫応答と考えられており、劇症化が懸念される症例ではステロイドパルス療法が行われる場合がある。

急性肝炎をきたす疾患として、A、B、C、E 型肝炎、自己免疫性肝炎、伝染性単核球症、サイト

メガロウイルス、単純ヘルペスウイルスなどが鑑別にあがる。A 型肝炎は、IgM-HA 抗体が陽性となる。本症例は、入院時の IgM-HA 抗体陽性が 3 日後に判明し、急性 A 型肝炎と診断された。一方 IgG-HA 抗体は、長期にわたって陽性が続くため、急性肝炎の診断には供しない。B 型急性肝炎は HBs 抗原陽性、IgM-HBc 抗体陽性をもって診断する。C 型急性肝炎例では、HCV 抗体は陽性となるが、既感染例も含まれるため、HCV RNA の測定が必須である。E 型肝炎は、人畜感染症としての側面があり、十分な加熱処理を行っていない、ブタ、イノシシ、シカなどの食肉を通じて感染する。IgA-HEV 抗体が保険適応となっており、診断に用いられる。

急性肝障害症例では、ウイルス肝炎以外のスクリーニングとして IgA、IgG、IgM、抗核抗体、抗ミトコンドリア M2 抗体、単純ヘルペスウイルス IgM、水痘・帯状疱疹ウイルス IgM、サイトメガロウイルス IgM、EB ウイルス抗 VCA IgG 抗体、EB ウイルス抗 VCA IgM 抗体、EB ウイルス抗 EBNA を測定する。総胆管結石などの鑑別のために造影 CT を行うことが望ましい。本症例は、脂肪肝を認めるのみで、胆道系の異常を認めなかった。

参考文献：

- 1) 国立感染症研究所：2012 年第 1 週から 2018 年第 36 週までの感染症発生動向調査における A 型肝炎の報告状況。URL：<https://www.niid.go.jp/niid/ja/id/1558-disease-based/a/hepatitis/hepatitis-a/idsc/idwr-sokuhou/8355-hepa-181002.html>

本論文内容に関連する著者の利益相反
：なし

出題：建石 良介 (東京大学消化器内科)